

やさしい解説

AIT通信

Accounting Information Technology

2007年(平成19年)10月創刊
第25号 平成21年10月号

臼柿、渋柿、あんぼ柿
ヒラタネ、ミシラズ
柿のタネ



発行



有限会社エーアイティ研究所

〒969-1169
福島県本宮市本宮字小原田 200 番地 2
TEL 0243-33-5538 FAX 0243-33-4467
URL <http://www.motomiya-mcs.jp/ait/>
E-Mail info@motomiya-mcs.jp

Windows 7 登場!

10月22日、マイクロソフト社より最新のOS「Windows 7」が一般発売されます。様々な新機能を搭載したにも関わらずイマイチ評判がよくなかったWindows Vista。その後継となるWindows 7は、ベータ版(開発途上版)の時点ですでに高い完成度をほこり、試用したユーザーから高い評価を得ていました。

Windows 7はVistaの改良版という位置付けで、Windows2000とXPの関係に似ていると言えます。では、具体的にどこが変わったのでしょうか。



すっきりしたエディション

Windows Vistaはホームユーザー向けと企業向けの2系統のエディションに分かれており、系統ごとに含まれない機能があるなど、エディションの機能の違いが複雑でわかりにくいものとなっていました。Windows 7はその反省からエディションがすっきりまとめられ、1系統で

Home Premium < Professional < Ultimate

というように、上位エディションは下位エディションの機能をすべて含む構成になっています。

下の表はマイクロソフトが発表した各エディションのパッケージ版の参考価格です。(※Windows7の価格設定はオープン価格ですので参考程度に。)

■マイクロソフト発表の参考価格 (6/26発表)

エディション	通常版	アップグレード版
Home Premium	24,800円	15,800円
Professional	37,800円	25,800円
Ultimate	38,800円	26,800円

※日本で一般発売されるエディションのみ掲載

アップグレードの注意点

Windows 7は、Windows XP、Windows Vistaからアップグレードすることが可能です。ただし、XPからのアップグレードに関しては注意が必要です。

Vistaからのアップグレードの場合は上書きインストールとなりデータがそのまま引き継がれるのに対し、XPからのアップグレードの場合、上書きインストールではなく、新規でのクリーンインストールになってしまいます。そのため、XPからアップグレードする場合は予めデータをバックアップしておき、Windows 7のインストール完了後に使用環境の再設定を行う必要があります。

また、32bit版と64bit版の間でも上書きインストールができないので、ご注意ください。

仮想環境「XPモード」とは

Windows 7の新機能の中での注目は、Windows XP用アプリケーションとの互換性を保つために搭載される「XPモード」という仮想環境でしょう。この「XPモード」はWindows 7 Professional以上で利用することができます。

Vistaの普及が進まなかった原因のひとつにアプリケーションの互換性の問題がありました。今まで使用していたアプリケーションが使えなくなることは企業にとっては大問題で、企業がVista導入を見送った理由のひとつとされています。

「XPモード」を活用することでアプリケーションの互換性問題を解決し、安心してWindows 7を使用することができます。

32? 64?

Windows 7にはエディションの他に32ビット版と64ビット版という2つのバージョンが存在します。メモリ管理の機能が大きく異なり、64ビット版ではより大容量のメモリを搭載し有効に活用することができます。ただし、64ビット版はデバイスドライバ等の対応の遅れやアプリケーションの互換問題などがあり、本格的な普及はこれからと言えます。



2001年に登場してから8年もの長い間、第一線で使用され続けているWindows XP。Windows 7はこのXPを超えることができるのか、その真価はぜひ皆様自身で感じていただきたいと思います。

これを機にパソコンの買い換えをお考えの方は、ぜひエーアイティ研究所までご相談ください!

編集後記

先日、iPhone 3GSを購入しました。私は以前からスマートフォンを使用していますが、Windows Mobileと比べてiPhone OSの処理動作の軽快さに驚いています。iMacやiPodに代表されるようにApple社の製品は未来を感じさせる魅力があります。そして、キーボタンがないなどの大胆さと思いついた割り切りが、ユーザーに全く不便を感じさせないのは、ソフトウェアの充実があってこそだと思います。デザイン、技術、設計思想が三位一体となったよい例ですね。(本田)